

## 会議顛末書

記録者 係長 近野英樹

| 決裁   | 教育長   | 教育部長 | 課長 | 課長補佐 | 係長 | グループ員 | (合議)<br>教育委員会<br>事務局政策監 |
|------|---|------|----|------|----|-------|-------------------------|
|      |   |      |    |      |    |       |                         |
| 件名   | 平成28年度第1回龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会   |      |    |      |    |       |                         |
| 日時   | 平成28年7月6日(水) 午後14時00分～午後16時10分  |      |    |      |    |       |                         |
| 場所   | 龍ヶ崎市役所5階第一委員会室  |      |    |      |    |       |                         |
| 出席者  | 樋口直宏会長，今橋浩一副会長，佐藤忠史委員，根本勇一委員，飯島進委員，伊藤祐香委員，齊藤充弘委員，佐藤由美子委員，横田修一委員，大川美那委員<br>事務局：平塚教育長，荒井教育部長，足立教育総務課長，黒田教育委員会事務局政策監兼生涯学習課長，小貫指導課長，辻井教育センター所長，重田教育総務課長補佐，岡野係長，記録者  |      |    |      |    |       |                         |
| 欠席委員 | なし  |      |    |      |    |       |                         |
| 傍聴者  | なし  |      |    |      |    |       |                         |
| 足立課長 | <p><b>(1) 開会</b><br/>皆さま，「こんにちは」。定刻となりましたので，ただ今から「平成28年度第1回龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会」を開会いたします。<br/>開会に当たりまして，平塚教育長が，ごあいさつをさせていただきます。</p>   |      |    |      |    |       |                         |
| 足立課長 | <p><b>(2) 教育長あいさつ</b><br/>～ 教育長あいさつ ～</p> <p><b>(3) 委嘱状及び任命書の交付</b><br/>本日の会議には全員が出席されており，全委員の過半数を満たしておりますので，この会議が成立していることをご報告させていただきます。また，今回委員となつていただきます皆様に，委嘱状・任命書を交付させていただきます。教育長が伺いますので，その場でご起立いただきまして，辞令をお受け取りいただきますようお願いいたします。<br/>～ 辞令交付 ～</p> |      |    |      |    |       |                         |
| 足立課長 | <p><b>(4) 自己紹介</b><br/>～ 自己紹介 ～</p> <p><b>(5) 会長及び副会長の選任</b><br/>この新しい学校づくり審議会には，会長1人，副会長1人を置くこととなっておりますので，議事に入る前に，会長及び副会長を互選いただきます。よろしく申し上げます。</p>   |      |    |      |    |       |                         |

|             |   |
|-------------|---|
| 佐藤（忠）<br>委員 | 事務局で案があれば出していただけないでしょうか。  |
| 足立課長        | 事務局案という声がありましたが、提案させてよろしいでしょうか。それでは、会長には、近隣市町村の小中一貫教育にも深く携わっておられ、豊富な経験をお持ちである筑波大学教授の樋口直宏先生に、副会長には、当市で校長先生を務められ、学校教育に豊富な経験をお持ちである今橋浩一先生にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。   |
| 全委員         | 異議なし  |
| 足立課長        | それでは、会長には「樋口先生」に、副会長には「今橋先生」にお願いしたいと思います。会長が決定しましたので、ここからの進行は、樋口会長にお願いしたいと思います。   |
|             | <p><b>(6) 会長あいさつ</b><br/>～ 樋口会長あいさつ ～</p>   |
| 足立課長        | <p><b>(7) 諮問書の提出</b><br/>それでは、教育長が諮問書を提出させていただきます。<br/>～ 教育長が諮問書を読み上げ、会長に提出 ～</p>   |
| 樋口会長        | <p><b>(8) 議事</b><br/><b>1. 新しい学校づくり審議会について</b><br/>ただいま諮問書が提出されましたので、会議を進めてまいりたいと思います。この審議会では、毎回議事録を作成していきますが、各委員からいただいたご意見につきましては、その内容を委員の氏名を明記した上で議事録に記載し、公表いたしますので、ご承知おき願います。また、委員の中から議事録を公表する前に、その内容を確認していただくため、「議事録署名人」を毎回2名、交代で選出したいと思います。第1回審議会の議事録署名人は、飯島進さんと大川美那さんをお願いしたいと思います。<br/>それでは議題に入らせていただきます。議題の1であります「新しい学校づくり審議会について」事務局から説明願います。</p> |
| 事務局         | ～ 資料に基づき説明 ～  |
| 樋口会長        | ただ今、事務局から説明がありましたとおり、審議会の概要と今後の予定について説明がありましたが、これにつきまして、ご質問等がございましたらお願いいたします。   |
| 全委員         | 特になし  |
| 樋口会長        | <p><b>2. 市立小中学校の現状について</b><br/>続きまして、議題の2であります「市立小中学校の現状について」事務局</p>  |

|      |  |
|------|--|
|      | から説明願います。  |
| 事務局  | ～ 資料に基づき説明 ～   |
| 樋口会長 | ただ今、事務局から説明がありましたが、これにつきまして、ご意見やご質問等がございましたらお願いいたします。  |
| 横田委員 | 悉皆調査はどういうことを指しているのでしょうか。   |
| 辻井所長 | 調査の対象が小学校6年生と中学校3年生全員の調査との結果ということになります。  |
| 樋口会長 | <p>全国学力・学習状況調査は4月中頃に全国的に行っており、8月に速報という形で結果が出ると思います。</p> <p>龍ヶ崎市に不慣れなこともあるので、基本的な所を2点伺います。</p> <p>まず学区の構造として、1つの中学校区には2つの小学校からなっているようであるが、1つの小学校から2つの中学校に分かれる地区が龍ヶ崎市にあるのでしょうか。これによっては小中連携を行う際にも日程調整などが難しくなってきますので、龍ヶ崎市の小中連携はどのようにやっているのでしょうか。</p> <p>2点目は、5ページ目の不登校児童生徒数について、小規模の小学校から中学校に行くと、学校に行きづらく感じるという全国的な傾向があるのですが、それに限らず、不登校の児童生徒がある学校に偏っていると、感覚的に把握している範囲で結構ですので、気づきのことがあれば教えていただきたいと思えます。</p> |
| 事務局  | 中学校区ごとに説明しますと、長山中学校区と城ノ内中学校区につきましては、2つの小学校の学区がそのまま中学校区となっております。他の4つの中学校につきましては、小学校の学区とは一致しておらず、1つの小学校から複数の中学校に通うという学区もあります。  |
| 小貫課長 | <p>小中連携に係る部分についてお答えいたしますと、児童生徒の移動が非常に大きな課題となっております。小学生が中学校に来て、体験活動をするようなものについては、1つの中学校の学区のすべての小学校が同じ日に実施する形態であると思えます。</p> <p>逆に中学生が小学校に出向いて活動をするようなものについては、この日はこちらの小学校、別の日に別の小学校に行くような形態が多いかと思われまます。</p>   |
| 辻井所長 | 小規模の小学校で6年間過ごして、大きな中学校に進学した際に足が遠のいて不登校気味になってしまった生徒はおりましたが、不登校の生徒に小規模の小学校の卒業生が多いという相関関係は見られません。   |
| 横田委員 | 児童生徒数の将来推計が平成33年度まで出ているが、長戸小学校の適正  |

|             |   |
|-------------|---|
|             | 規模の時にも、実際の地区内の子どもの数に、他の小学校に通う割合を考慮した上で児童数の推計をしていたが、今回の推計も同様でしょうか。   |
| 事務局         | 横田委員からのご指摘のとおり、平成33年度は今年度中に1歳なる子どもが1年生になる年となりますので、実際の地区内の子どもの数から推計しております。各学校ごとの推計では、直近3年間のその小学校区で指定校変更により児童生徒数が増減する割合や、転出転入する割合、私立学校や特別支援学校などに就学する割合の平均値をとりまして、実際にお住まいの子ども的人数から、その割合を考慮し推計したものとなっています。      |
| 樋口会長        | 次回以降、学力面や生活面など、龍ヶ崎市の現状については事務局のほうからご報告いただくことになろうかと思えます。   |
| 樋口会長        | <b>3. その他</b><br>その他ということで事務局から何かありますか。   |
| 足立課長        | こちらからは特にありませんが、今後は児童生徒数だけでなく、当市の子ども達のデータや状況を共有していきたいと思っています。次回にこのようなデータがあればもっと議論がしやすいというものがありましたら、ぜひご意見寄せていただきたいと思いますと思っています。また、この場ではなくても、いつでもご連絡いただければと思っています。   |
| 樋口会長        | ありがとうございます。今日は初回でもあり、委員の皆様も、勝手にわからない所があると思いますが、せっかくですので、各委員の先生方におかれましては、学校現場の状況などにおけるお気づきの点、それから、地域の皆様、保護者の皆様におかれましては、お子さんが学校に通っている中であったり、地域の中で、こんな課題があるということをご簡単に結構ですので、ご発言いただきたいと思います。                    |
| 今橋副会長       | 本日ここまで参加しての感想になりますが、どこの市町村でも、学区を審議するための審議会はありますが、この会は龍ヶ崎市として新しい学校をつくっていくんだという方向性がわかって正直安心しています。<br>児童生徒数を見ながら、行政として学区を編成するというような発想ではなく、龍ヶ崎がどのような教育に踏み出していけば、子ども達にとってより良い教育となるのかを、この会が目指していることが理解できたと思っています。 |
| 佐藤（忠）<br>委員 | 学校現場にいますとどうしても自分の学校のことしか目がいかないのですが、市全体で将来のこと考えていかないといけないのかなと、今日の会議で感じました。データをもとに、龍ヶ崎市の将来の学校像を改めてここから考えていくのだと感じました。  |
| 根本委員        | せっかくですので現場の話をさせていただきます。先ほどのデータにありましたように、愛宕中学校は生徒数が207名、学級数が6学級、そして特別  |

|         |  |
|---------|--|
|         | <p>支援学級の計7学級になり、龍ヶ崎市内の中で一番小さい中学校です。実は学校には職員の加算というのがありますが、7学級から6学級になると、教員の数が一気に3人減らされてしまいます。現在の教員数は12人ですから、授業時間数が増えたんですけれども、英語の教員が1人しか配置されておられませんので、若い教員であるにもかかわらず、学級担任を持たせることができないというジレンマも正直なところ抱えております。</p> <p>小さな学校は子ども達を一目で見渡せるという非常にコンパクトでもあるのですが、例えば、部活動のときに指導したくても、先生の数も少ないので、なかなか思うようにいかない。こういった面などいろんな面で、学校のあり方を考えていただきたいと思います。</p> <p>今日は初めての会合ですので、愛宕中学校がそのような岐路に立っている学校だということをご理解いただければと思い、お話ししました。</p>   |
| 飯島委員    | <p>すべての中学校区において、さまざまな形での中学校区ごとの連携により、中1ギャップである不登校であったり、暴力行為が解消されている状況を、できるだけ検証できるような形で新しい学校づくりを検討していただきたいと思います。龍ヶ崎市の学校に通ってよかったと思えるような学校づくりや教育を今後検討していただければと思います。</p>   |
| 伊藤委員    | <p>各中学校ごとに現在どのような部活動があり、所属する生徒の人数が知りたいと思いました。保護者が選択肢を持っているのもよいのではないかと思います。</p>   |
| 斉藤委員    | <p>私どもは八原小学校、城ノ内中学校区ですが、八原小学校の子ども達の安全のための下校の見守りに関わっています。八原まちづくり協議会の中にあるこども委員会や防犯委員会が主体で活動しています。城ノ内中学校の生徒とは、秋に訪問活動ということで、藤ヶ丘地区のお年寄りに声かけ運動を行う予定です。また、中学校の吹奏楽の皆さんに来ていただいて、演奏を年寄りに聞かせていただくなどの交流を深めながら、子ども達は地区の宝であることを認識してもらおうのが、まちづくり協議会の役割だと思っています。この秋にも20の自治会が参加して、対象世帯数4000世帯の大きな防災訓練を行い、八原小学校の子ども達や教職員の皆さんと地区の住民の皆さんを巻き込んで実施していきたいと思っています。</p> <p>子ども達の児童生徒数の今後の推計については、龍ヶ崎市中でも八原地区ではこれから開発を行う場所もありますが、できる限り子ども達が減らないように、むしろプラスに転じられるような施策を考えていただきたいと思います。</p> |
| 佐藤（由）委員 | <p>この会議に出るにあたり、高校生になる娘に中1ギャップを知っているか聞いてみたところ、「知らないよ」と返事が返ってきました。私自身もこの中1ギャップという言葉、今回の審議会の委員になるまで聞いたことがありませんでした。インターネットなどで自分なりに勉強してきたのですが、うちの子どもは馴柴小学校から城西中学校へ通ったため、中学校のクラスメイトがほとんど知り合いであったからかもしれないが、中1ギャップという</p>  |

|      |   |
|------|---|
|      | ものがなかったと思います。   |
| 横田委員 | <p>今橋副会長がお話された感想と同様です。きっとこの会議でも、児童生徒数によって、学校をどうするのかという話も結果的にはそういうことになるかもしれませんが、一番大切なことは子ども達の教育環境をどう整えていくのかを、大人が責任を持って考えていかなければいけないと感じました。</p> <p>あと、細かいことですが、来年から北文間小学校と龍ヶ崎西小学校が統合すると聞いていますが、川原代小学校も統合の話が進んでいるのでしょうか。</p>   |
| 足立課長 | <p>北文間小学校は来年の4月1日に龍ヶ崎西小学校と統合することで話を進めております。現在は統合に向けて、スクールバスなどの調整を行っているところです。川原代小学校につきましては、地域の方々との話し合いの中で、児童数は減少しているものの、しばらくこのままでという意見が強かったので、それを尊重していきたいと考えております。</p>   |
| 大川委員 | <p>私は龍ヶ崎市に来て8年経ちます。子ども達が規模の大きい八原小学校と城ノ内中学校に通っているが、北文間小学校のような規模の小さい学校もあることを知りました。規模の大きい学校にメリットがあるのかなと思った時期もありましたが、皆さんのお話を聞いていると、大きいから良い悪いというものではないと感じました。</p>  |
| 樋口会長 | <p>本日の議事は、以上でございます。ご審議いただきましてありがとうございます。ここで進行を事務局にお返ししたいと思いますので、よろしくお願い致します。</p>  |
| 足立課長 | <p><b>(9) 講話 小中一貫教育の展開</b></p> <p>皆様にはさまざまなご意見をいただき、ありがとうございました。次回以降も本市の子ども達の現状を知っていただくために、教育委員会の方から情報提供をさせていただきながら、審議会における協議を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>さて、この新しい学校づくり審議会では、小中一貫教育についても検討することとしております。今回は第1回目の審議会ですので、小中一貫教育について、委員の皆様にも小中一貫教育の概要を共有していただきたいと考えております。</p> <p>つきましては、小中一貫教育の専門家でもある樋口会長から近隣自治体の事例なども交えていただきながら、小中一貫教育についてのご講話をお願いしたいと思います。それでは樋口会長、お願いいたします。</p> |
| 樋口会長 | <p>～ 講話（小中一貫教育の展開） ～</p>  |
| 足立課長 | <p>樋口会長、ありがとうございました。ただ今、小中一貫教育についてのご講話をいただきましたが、みなさまからぜひご質問やご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>  |

|       |  |
|-------|--|
| 横田委員  | <p>私の子どもが私立の中高一貫校に通っており、一貫校は子どもにとっては普通のものであり、すっかり慣れていく感じがしています。小中一貫校に通っている子ども達がどのように中1ギャップみたいなものを受け止めているのか、お聞かせいただきたいと思います。</p>  |
| 樋口会長  | <p>これは施設一体型と施設分離型で違ってくるかと思えます。施設一体型の場合は、うまくいってるところであればスムーズに違和感なく中学生になっているが、途中から小中一貫校に入る児童から見ると大変であることもあります。</p> <p>春日学園の場合、私立の中高一貫校などに転校する子どもは1クラスに2～3人いる状況です。中高一貫校も同じことが言えますが、先生方からよく言われることは6年生が最高学年でなくなることによる緊張感の無さというものがあります。つくば市は6年生の卒業式もありませんし、7年生の伸びがいまいちであるという難しさがあります。</p> <p>施設分離型の場合は、逆にそのようなことがないように、各小学校や地域どうしが連携し、うまく組み合わせを作っただけによって、中学校のスタートから溶け込めるという所もあります。</p>  |
| 横田委員  | <p>つくばスタイル科に興味がありまして、私は農業をやっておりますが、福島県の喜多方市では各小学校に農業科があり、単に農業のことだけでなく、いのちの大切さなども教えており、いいなと思いました。アクティブラーニングもそうですが、進学校では詰め込み型の授業が多いが、大学では自分の考えを発言し、議論をするような授業をしているようであり、小中学校でも発言などをやる機会が多くなった方がよいのかなという印象を持っています。</p>  |
| 樋口会長  | <p>大学入試が今の中学2年生から変わる予定であり、教科そのものを資質や能力の観点から変えていく、具体的には知識を応用し活用する力を育てていくという方向を目指しています。</p> <p>小中一貫教育を行うにあたっては、何が課題で何のために何をやるのか、この審議会を考えていかなければならない。小中一貫教育移行前の当時の品川区では、公立中学校の子ども達は2番手の子ども達が多く、生活面やリーダーシップが育ちにくいという課題を何とかしようことで変わりました。那珂市の場合は、子ども達が将来、市外に出て行かないように郷土の魅力をどう高めるかという取り組みの一環として活用しています。</p> <p>学力に差があった方が、それを解決する手段として小中一貫教育はやりやすいが、そのような課題は無い方がよいのですが、そうでなければ、龍ヶ崎で何をやるのか、何のためにやるのか、中1ギャップの課題だけではなく、学力をあげていくとか、生徒指導面のことに対しても、課題を解決する手段として小中一貫教育が活用できると思えます。</p> |
| 平塚教育長 | <p>新しい学校づくり審議会の立ち上げにあたって、学校では何ができるか、方向性は何か、教育現場で出てくるだろう課題や不満などがありますが、私達は、今の子ども達を何とかしたいと思っております。将来たくましく生き</p>   |

ていくにあたり、今の龍ヶ崎で不足していることは何だろうか。少子化の影響でこんな体験が減ったよね、友達づきあいがうまくできない子が増えたかな、教育に問題があるのかな、というようにいろんな仮説を立てながら、この会議に臨んでおります。当市でもさまざまな問題を抱えておりますが、本日は素晴らしい皆さんには忌憚ないご意見をいただき、この審議会での議論を通じて、新しい学校づくりに向けた光が必ず見えてくるだろうと確信しております。今後ともよろしく願いいたします。

足立課長

最後に、次回の審議会の日程ですが、9月5日（月）の14時からとさせていただきますので、ご出席いただきますよう、お願いいたします。それでは第1回新しい学校づくり審議会を閉会いたします。お疲れさまでした。

○平成28年7月6日に開催された龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会の内容については、上記のとおり相違ありません。

平成28年7月21日

議事録署名人 飯 島 進

議事録署名人 大 川 美 那